

関西大学高等部・中等部
2014年度学校評価報告書



2015年3月

目 次

1. 本校の概要	1
2. 今年度の重点目標における取組計画、自己評価及び今後の改善方策	1
3. アンケートの実施状況について.....	5
4. アンケート結果の分析.....	6
5. 校長の意見書	14

参考資料

2014 年度 関西大学高等部・中等部点検・評価アンケート集計

2014 年度 関西大学高等部・中等部学校評価報告書

関西大学高等部・中等部

自己点検評価委員会

1. 本校の概要

2010 年 4 月に高槻ミューズキャンパスの地に 12 年一貫教育をめざして、初等部とともに中等部、高等部が開校。施設設備面では教室に電子黒板が標準装備され、マルチメディア教室をはじめ PC、iPad も多数用意され、最新の ICT 教育環境が整っている。中等部では週 7 時間の英語と「考える科」による思考力の育成、高等部では週 39 時間の豊富な授業時間とプロジェクト学習による探究力の育成を特徴としている。

現在、初等部からの内部進学生を中等部 1 年生に迎え、開校当初の単独校種による教育活動の展開から、中高 6 年・初中高 12 年一貫教育のための教育活動へと、これまでの取組を修正する大きな過渡期に入っている。

(1) 教育理念・教育方針

関西大学の教育理念である「学の実化」に基づき、学理と実際の調和を基本とする独自の教育を展開し、一貫教育を通じて「確かな学力」「国際理解力」「情感豊かな心」「健やかな体」の 4 つの力を育むことにより、高い倫理観と品格を有する「高い人間力」を持つ人材を育成する。

また、人間力の基礎を養い、世界を切り拓く「考動力」豊かな人材を育てる。

(2) 中期的目標

ア 中期的目標①

初等部、中等部からの内部進学にとまなう新たな学校生活、学習活動の体制整備

イ 中期的目標②

「確かな学力」の養成のための 5 教科学力の底上げと家庭学習習慣の定着

2. 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

ア 重点目標① 12 年一貫教育における円滑な接続体制の確立

a 12 年一貫教育推進に資する組織体制の構築

(ア) 取組計画・内容

初等部から中等部への内部進学が始まったことから、生徒募集の観点も含めて初中高連携の学校行事を実施し、12 年一貫教育の構築のため初中教員の相互理解を深め、生徒情報を共有する組織作りを進める。

【評価指標】

初中高連携の学校行事及び初中教員の情報交換会を年度内に 1 回以上開催する。

(イ) 自己評価及び今後の改善方策

【自己評価】

初等部の内部進学生と外部入学生との学習成績を入学段階から教科別に分析し、中等部校長と初等部の校長、教頭による報告会を年4回、また初等部中等部双方の教務主任による情報交換を月1回継続的に行っている。

生徒募集では、初等部6年生に対する体験授業と中等部説明会を児童保護者対象に定例化し、5年生保護者にも中等部説明会を実施した。中高とも内部進学生と保護者を対象とした単独の入学説明会も精力的に実施している。学校行事では、中等部1年生と初等部5年生が後期から「総合的な学習の時間」でコラボレーション授業を実施した。文化祭では初等部児童の参加も拡大した。

【今後の改善方策】

教科別の学習内容や方法について、初中で協議する機会を次年度は持ちたい。喫緊の課題は、国数英3教科で基礎となる部分の鍛え方に共通理解を得ることにあると考える。そのためには、初等部の教員に中等部から高等部、高等部から関西大学への内部進学制度についての理解を深めることが肝要である。中高側から初等部に対して、内部進学制度の説明会を持ちたい。

b 内部進学生の学習状況の把握

(ア) 取組計画・内容

内部進学生の成績を教科別に集約し、定期考査と模擬試験、学校評価アンケート等における集団の現状と推移を観測することによって、学校生活への適応度や学習内容の理解度を適宜把握する。

【評価指標】

- ・教科を基本単位とした授業進度及び授業レベルの調整を行い、内部進学受け入れ体制に適切な修正を講じる。
- ・生徒・保護者アンケートにおいて当該項目のプラス評価が70%以上であること。

(イ) 自己評価及び今後の改善方策

【自己評価】

英語科では内外で授業を分けて実施し、初等部で英語に親しんできた内部生の習熟度把握に努めた。英国数社理の5教科では授業シラバスの修正について検討し、英数の2教科でシラバスの見直しを進めている。

【今後の改善方策】

初等部からの内部進学生の学力格差を入学段階で把握し、家庭学習習慣を保護者と日常的に連携して定着させていく取り組みを進める。

中等部から高等部への内部進学生には学力、自主性、国際交流経験等においてアドバンテージを実感させ、外部生の意識や学校生活を牽引する集団またはリーダーの育成を進めたい。

【根拠資料】

生徒アンケート項目 (プラス評価%)	中1 全体	中1 内部生	高1 全体	昨年度 高1	高1 内部生	昨年度 内部生
学校生活は楽しいか	89.7	90.7	86.4	80.6	90.3	85.8
入学してよかったか	91.5	92.6	70.7	74.3	74.8	82.7
授業で学力が向上している	81.3	75.9	72.8	67.4	74.8	72.4
授業内容が分かりやすいか	77.6	64.8	61.9	68.8	64.1	79.5
関大生としての自覚	86.9	88.9	83.6	86.8	83.5	92.9

イ 重点目標② 家庭学習習慣の定着と大学受験を見据えた学習・進路指導**a 家庭学習習慣の定着****(ア) 取組計画・内容**

学習指導では、中等部は課題、点検、確認テストという日常的な取組を確実に実践し、課題提出や授業態度等の学習規律を定着させ、教科学力の底上げをめざす。高等部ではクラスに応じた授業レベルや定期考査の問題設定を行い、模試成績の分析による個別面談を通じた学習指導によって、自主学習習慣の育成定着をめざす。

【評価指標】

生徒・保護者アンケートでは当該項目のプラス評価 70%以上を評価指標とする。

(イ) 自己評価及び今後の改善方策**【自己評価】**

教員側では「学力向上の組織的な取組」に対して、88.9%がプラス評価をしている。定期考査の得点分布は、ほとんどの教科科目において平均 55～60 点を中心に人数の山が右寄りに推移しており、模試成績でも概ね学力の底上げが達成されている。「成績低迷時の適切なフォローの取組」では教員側 84.4%のプラス評価に対して、下表のように今年度もまだ生徒・保護者との認識に差が見られ、中等部保護者平均 51.6% (↓15.5%)、特に中等部 2 年生保護者が ↓23.6% と下がり幅が大きかった。成績低迷生徒の主たる原因として、スマホやネットでの時間消費と生活の不規則さによる家庭学習時間の不十分さがどの学年からも指摘されている。

【今後の改善方策】

保護者と連携して一人ひとりに自宅での生活習慣の改善を指導していきたい。具体的な方策として、今年度中 1 学年では課題未提出生徒の保護者に対して、学校からメール配信して現状を伝えたことが効果的であったと報告があり、中等部全学年に拡げていきたい。

【根拠資料】

アンケート項目No.7 No.8 プラス評価% (平均)	中等部 生徒	中等部 保護者	高等部 生徒	高等部 保護者
授業を通じて学力がついている	76.5	/	71.6	/
授業内容が分かりやすい	69.9	/	71.6	/
模試後の面談は学習に役立っている	74.8	/	74.0	/
学校は学力向上に組織的に取り組んでいる	/	77.8	/	75.3
成績低迷時の適切なフォローの取組	64.2	51.6	64.5	63.0
学校からの連絡や懇談は緊密に実施	/	73.9	/	75.2

b 大学受験を見据えた学習・進路指導

(ア) 取組計画・内容

進路指導では、中高ともに関西大学との連携を活用し、中等部では知的好奇心の刺激を、高等部では学部が持つ学問分野の理解を図ることで、生徒の興味関心と一致した大学進学をめざす。

【評価指標】

中大高大連携の取組を実施し、生徒・保護者アンケートでは当該項目のプラス評価70%以上を評価指標とする。

(イ) 自己評価及び今後の改善方策

【自己評価】

No.12「中高大の学校同士の教育連携が積極的に行われている」に対して、教員側では91.1%がプラス評価をしており、「中高、関大に関する相互理解を進めるための取組を行っている」では、97.8%がプラス評価をしている。中等部では3年間で関西大学の13学部教員による中大連携講座で知的好奇心を学問的な興味関心につなげていく取組が進んでおり、加えて今年度から中3生に対して関大OBを中心とした社会人特別講座を6回実施した。高等部では、SGHの取組により1年プロジェクト学習が充実し、2,3年では放課後に希望者対象の学部別説明会を独自に実施した結果、アンケートでは高等部すべての学年でプラス評価がアップしている。

【今後の改善方策】

中高大の教育連携の内容充実によって、生徒の学部理解から学部選択へとつながる流れを確立したい。

【根拠資料】

アンケート項目No.12	中等部 生徒	中等部 保護者	高等部 生徒	高等部 保護者
中高大の教育連携がある	77.5	/	73.4	/
関大の情報が増え大学進学モチベーションが上がってきた	60.5	/	71.5	/

アンケート項目No.12	中等部 生徒	中等部 保護者	高等部 生徒	高等部 保護者
中高大連携が積極的にある	/	79.5	/	77.5

3. アンケートの実施状況について

(1) アンケートの実施とその方法

5年目での「学校評価(自己評価)」活動にあたっては、昨年度のデータとの経年比較と共に、内部進学制度がもたらす新たな現象の早期把握に努める視点で臨んだ。開校以来5年が経ったことを受け、これまでの校務や学習への取り組みに関して、自己点検の結果も参考資料としながら、内部進学制度が常態化する本校の教育活動に修正改善を加えたいと考える。

本校では本年度の自己点検・評価活動方針案は、4月21日の自己点検評価委員会です承され、5月7日の職員会議で発表した。関西大学自己点検・評価委員会併設校部門委員会実施要項の内容に関しては、本校の実情に合わせて以下のような評価活動を実施した。

	項目	中等部・高等部
共通方針	組織面の自己評価	10月27日の自己点検評価委員会で各主任に対して部署としての自己点検・評価を依頼。 11月5日職員会議において、全教員による「組織面の自己点検・評価」アンケートを実施。
	学校関係者評価	実施しない。
	第三者評価	外部評価委員会に委ねる。
相違点	教員個人による自己点検・評価	実施を見送る。
	児童・生徒の評価	11月に中等部・高等部ともに「学校生活全般」に関するアンケートに学校評価共通項目を盛り込んで実施。
	保護者の評価	11月7日中高等部の全保護者を対象に実施。

(2) 今年度の教育活動状況

本年度の着任者は6名であり、中等部の学年団は各4名（1,2年は学年主任が担任兼務）、高等部の学年団は各5名とした。部所属教員は教務部4名、入試広報部と生徒指導部は3名、進路指導部と国際理解教育部は各2名としたが、本年度は特に人権教育部には次年度の地区幹事校当番に備えて2名を専属で配置し、4月よりスーパーグローバルハイスクール（以下SGHと略記）に指定されたことをうけ、高等部教務主任に研究開発部主任を兼務する異例の措置をとった。そのため積年の課題である校務組織の兼務解消については大きく後退し、年度途中の退職休職とも重なり、非常にタイトな業務運営の一年であった。

また、本年度初めて初等部6年生が中等部1年へ内部推薦入学をし、初中高等部の12年間一貫教育が始まった。昨年度から準備した受け入れ体制を入試データの分析（内部生はクラス分けテストのデータ）によって修正し、教科と学年団のきめ細かな対応が功を奏し、比較的落ち着いたスタートとなった。

各業務での学年団と部との連携では、学年の係教員が参加する分掌ごとの会議の内容が鍵と

なるが、部と学年の橋渡しをするという学年の係教員の役割が一部で滞り、分掌の兼務となった教務と研究開発では重い負担が発生した。次年度は校務主任の兼務解消を最優先で取り組みたい。本校の組織は部主導をめざしていたが、実際の各業務は学年団が担っている現状である。したがって、組織としては主任横並びのナベブタ組織で運営されているため、横軸の学年と縦軸となる部との間の連携の重要性と、主任→教頭→校長という一本の報告ルート的一端を担う主任の組織運営上の重さを改めて認識していかなければならない。次年度はこの観点から、各主任で構成される校務運営委員会のあり方にも改善を加えたい。

高等部の現状は、3年生が本年度も卒業見込入試の希望者全員合格を果たし、高等部の特色である卒業研究も全員が乗り越え、3期生として体育祭をはじめ各行事に存在感を示した。内部進学生と高等部からの入学生が3対1の比率で構成される2年生は、文系・理系の選択と進路希望によって編制されたクラスの中で良好に融和しており、学習成績では上位層がしっかりと維持され下位層の人数も徐々に減ってきている。1年生は高等部からの入学生のHR教室を内部生と同じフロアに戻したこともあって、SGHの取組によって内部生との垣根も低くなったのか昨年より交流が進んでいる。

SGHの取組では、グローバルな視座を錬成するための4回の全体講演、ドイツ・英国・オーストラリア・台湾・ハワイ・シンガポールの高校生との交流、京都のグローバル企業10社への企業訪問が実施され、大学教員39名・院生学部生16名（延べ数）の連携協力をいただいた。交流機会は高等部の2年生や中等部生徒にも一部拡大され、英語運用能力や英語学習へのモチベーションの向上、外国から見た日本の姿を知り日本を再認識する経験などが、生徒アンケートに確認され手応えを感じている。外部からのSGH運営指導委員会でも本校の意欲的な取り組みは高く評価された。

中等部の現状は、3学年ともに学校生活への満足度が高く、学校生活を楽しく感じている生徒は各学年80%を超えており、問題行動も極めて少なく落ち着いた一年間であった。カナダ研修を無事終えてきた3年生は、例年と同様に各自の中に達成感が持てたようで成長を感じさせている。高等部への進学が決定された1月からの新しい試みとして、各界の関大の先輩による連続講演会「達人に学ぶ」も生徒に好評で、関西大学の一員としての自覚を高めて高等部へ進学するための行事として恒例化を図りたい。2年生も総合の時間を使い弁論大会を開くなど新しい試みを展開した。1年生では初等部からの内部進学生を迎え、集団の学習成績の推移や学校生活で状況を注意深く見守ってきた。総合の時間では、国際貢献と地球環境をテーマに初等部5年生とのコラボ授業と発表を行うなど、学習内容の初中での連携を活かした新しい取組を行った。

4. アンケート結果の分析

昨年度との経年比較を交えながら本校独自項目の集計結果も参考に、5年目の学校点検を行い初中高大の接続が本格化する来年度の改善点を明確にしていきたい。

○ 学校全般

No.1「学校生活は楽しい」は、中等部平均 87.5%（保護者 89.7%）高等部平均 87.3%（保護者 88.2%）。No.2「入学の満足度」では、中1年は 91.5%（保護者 83.5%）高1年は 70.7%（保護者 84.6%）が入学して良かったと感じている。卒業の年にあたる中高3年生の満足度は、中3年 82.4%（保護者 88.2%）高3年 89.9%（保護者 97.3%）と、今年度も高等部への内部進学や大学進路が未定の11月段階でも3年生に高い数値が得られた。

No.3 私学の独自性「建学の精神や教育方針の理解」においては、中等部生徒の理解は平均 78.1%、高等部生徒は平均 63.3%（中等部保護者 92.0%、高等部保護者 87.0%）と、例年の傾向は変わらなかった。学年別に見ると、初等部からの内部進学生が半分を占める中1生で 89.7%と昨年度より 6.2%上がり、中3生は2年時より 15.8%も数値を下げていることが目立つ。高等部でも、高2生が1年時より 9%数値を下げ、高3生は2年時より 5.9%数値を上げたとはいえ、2期生の3年時より 11.8%低い。集会やHRでの話と行事への生徒の関わり方を通じて、生徒に教育方針を理解させていきたい。

① 学校運営

No.4「会議の効率的な運営」に対する評価では、昨年度よりマイナス評価が増えてしまった。これは校務分掌で高等部教務と研究開発の主任を兼務とした校長の責任である。本年度の重要案件であった普通科変更カリキュラムの策定、SGHの運営、初中接続に対応すべき中等部総合の内容改良等が、担当主任への過重な負担をもたらしたため、次年度から部主任の兼務は極力行わないこととする。「教員間連携」「管理職との相互理解と信頼関係」においても、昨年度よりプラス評価が減少している。本校の多忙化が解消されないことと相まって、校務運営の決定に至るプロセスが見えにくいことに教員が不満を抱くこととなったと史料する。次年度は委員会や会議での議論をしっかりと校務運営委員会に集約し、組織の意思決定ルートを整備したい。

No.5「情報公開」では、本年度も事務室の努力によってトピックスを迅速にHPにアップしていただいている。教員は 80%、中等部保護者平均 71%（↓5.8%）、高等部保護者平均 69.4%（↑4.9%）のプラス評価が得られている。No.9「学校からの連絡や懇談は緊密に行われているか」と照らし合わせてみると、教員 98%、中等部保護者は平均 73.9%（↑4%）、高等部保護者平均 75.2%（↓2.1%）で、No.5の評価よりいずれも高くなっている。三者懇談や年数回開かれる学年保護者集会での生徒に関するやり取りは、今年も有効に機能したと言えよう。

No.6の危機管理項目では、生徒は 80.4%、保護者も 87.6%と今年も高いプラス評価を得ている。本校独自項目の「初動対応の迅速さと適切さ」は、中等部生徒平均 77.4（↓3.8%）保護者 79.1%（↑6.3%）、高等部生徒平均 66%（↓2.9%）保護者 81.2%（↑3.2%）の数値であった。

「個人情報の管理が組織的に行われているか」では、教員 91.1%・中等部保護者 90.7%・高等部保護者 95.4%と、いずれも昨年同様高いプラス評価である。危機管理に関連して、学校側の思いを少し述べたい。No.9「学校からの連絡や懇談は緊密に行われているか」とも関連するが、学校側から保護者への諸連絡に関して、本校では一斉メール配信と保護者ポータルサイトとい

う二つの手段を活用している。これらはいずれも保護者からの登録制で運用されており、校外学習や宿泊行事、海外研修や短期交換留学を多く実施している本校では、緊急時の連絡手段の確保という観点からも保護者に登録への理解と協力を求めている。しかし、現状ではどの学年においても100%の登録には至っていない。中等部1年では未提出課題の周知のために一斉メール配信を日常でも活用し、学習規律の形成に効果を発揮していると報告を受けている。生徒が学校からの連絡プリント等を保護者にきっちりと渡していない現状は、学校現場の積年の課題でもあるので、その打開策として保護者に強く協力を求めていきたい。

② 教育内容

No.7～9は学力向上のための組織的な取り組みに関する項目である。No.7「授業を通じて学力がついていると感じる」は、中1年81.3(↑4.6%)、中2年72.6(↓6.2%)、中3年75.5(↓7.7%)、高1年72.8(↑5.4%)、高2年58.7(↓16.7%)、高3年83.2(↓3.6%)がプラス評価であり、中等部平均76.5%、高等部平均71.6%と全体ではややポイントを下げた。教員側では学力向上の取組に88.9%(↓6.9%)とプラス評価をしているが、組織的な取組に対する自己評価はやはり下がってしまった。小規模校故の校務の兼任や担当科目種類の多さのため、業務が多忙化していることが背景にあるように思われる。

アンケート項目	中1	中2	中3	高1	高2	高3
授業で学力がついている	81.3	72.6	75.5	72.8	58.7	83.2
前の学年時からの増減(%)	/	↓4.1	↓3.3	/	↓8.7	↑7.8
学校は学力向上に組織的に取り組んでいる(保護者)	73.2	76.0	83.6	81.4	63.6	80.9
前の学年時からの増減(%)	/	↓14.5	↑0.1	/	↓2.1	↓0.9

授業というテーマでは、本校教員はNo.14「教員研修」の項目にある「充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいる」で、91.1%(昨年度91.5%)と毎年高いプラス評価をしている。校長としては現場の実態から考えれば、これはかなり高い数値であると考えられる。多忙化が解消されず日々の時間的な余裕がないため、「本校は教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している」のプラス評価が66.7%(↓12.0%)と下がっているためである。教員の各種スキルアップ研修を校内で実施するまたは校外で積極的に受けることが可能かという点でも、プラス評価が6割程度の現状では不十分であり、教員に時間的な余裕を作り出さねば、日々の授業改善をモチベーション高く維持することはできない。公開授業を含め授業法の校内研修は、時間割の制約と放課後に時間がない中で理科、社会科、英語科では教科ごとに取り組みが始まっている。校外への教科別スキルアップ研修や進路指導研修には、若手教員ばかりでなく中堅層の教員も可能な限り自発的に参加している。授業研究や業務改善へのモチベーションに影響しないよう、教員の疲弊に常に留意していきたい。

生徒・保護者に対する項目「工夫された授業、教材研究や指導力向上への努力」に対しては、下表のような結果が得られた。2年前に指摘した中2から学習内容の難易度がアップする傾向は、「授業内容が分かりやすいか」の回答%から今年度は中3にも見受けられる。

アンケート項目	中1	中2	中3	高1	高2	高3
興味や知的好奇心が刺激され 授業内容が分かりやすい	77.6	69.1	63.1	61.9	58.7	69.8
前の学年時からの増減 (%)	／	↓14.5	↓11.5	／	↓10.1	↑3.4
昨年度との比較 (%)	↓6.0	↓5.5	↓15.9	↓6.9	↓7.7	↓11.6
工夫された授業や実験が取り 入れられている (生徒)	90.7	88.4	76.3	79.6	76.1	54.6
昨年度との比較 (%)	↓2.2	↓3.7	↓17.8	↑2.1	↑18.3	↓28.2
教員は指導力向上に努めよう としている (保護者)	73.2	70.2	76.3	73.4	66.0	81.9
昨年度との比較 (%)	↓17.0	↓6.8	↑1.8	↑1.2	↓17.6	↑5.8

本校独自項目である「模擬試験について」では、教員は「模試を活用した効果的な指導体制ができています」に対して、95.6%と非常に高いプラス評価をしている。生徒も「模試後の面談等によって自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っている」は、中1年85.1%、中2年77.8%、中3年61.4%、高1年70.1%、高2年65.2%、高3年86.6%とまずまずの数値であった。模試分析会から生徒面談、また教科会議での教科毎の分析を行い、教科主任から非常勤講師へ情報を伝えるという流れは定着した。このような取組に対して、保護者は「学校は生徒個々の学力とその推移を的確に把握しているか」で、中等部平均83.6%、高等部平均83.1%と高いプラス評価をしている。7月12月の三者懇談での成績報告や学習アドバイスが、生徒の学力推移を保護者に十分に伝える場となっているようである。

No.8「スローラーナーへの対応」は、本校の学校評価における課題の一つである。「成績低迷の場合に適切なフォローの仕組みがあるか」に対して、教員は84.4%（↓7.3%）のプラス評価であったが、下表のように保護者の認識との差は開いたままである。

アンケート項目	中1	中2	中3	高1	高2	高3
成績低迷時の適切な フォローの仕組みがある	67.3	70.8	54.4	61.9	65.3	66.3
前の学年時からの増減 (%)	／	↓13.7	↓2.4	／	↓8.2	↑1.6
習熟度の遅れた生徒への フォローは十分か (保護者)	49.5	48.0	57.3	60.0	50.8	78.1
前の学年時からの増減 (%)	／	↓23.6	↓6.3	／	↓2.2	↑8.1

本年度も中等部で実施している主たる学習フォローの取組は、日常的な課題→点検→確認テストを柱に学年と連携して行っている。模試成績返却後、期間を限った成績不振者に対する補

習授業も定例化し、更に中等部1年では定期考査前に教科別で居残り指名補習を行い、中等部3年では英国数の課題未提出者に居残り学習、春休み進学対策補習の実施等によって、学力低迷層の生徒の原因である家庭学習習慣のなさを学校の時間で改善しようとしている。高等部でも、基礎学力の定着に向けた日常的な課題→点検→小テストをほとんどの教科で実施し、期末考査前の個別質問会には教科別に指名リストも出され該当生徒に参加を促している。模試後の学習面談、学習計画表の作成、自習室の開設など、高等部では高3までに自主学習習慣を身につけるための指導に重点を置いているため、中等部のような教員側が管理指導する方法とは異なっている。高1、2の内部進学生徒の保護者には、この中高での方針の違いが理解されにくいのであろう。次年度は中高6年間での学習規律や家庭学習習慣の育成について、シラバス的なものを具体的に示して生徒保護者に伝えていきたい。また、学習指導においては学習指導要領の新課程実施も大きな負担となっているため、次年度からは成績が低迷する原因を生徒アンケートで集約し改善に努めたい。

次に、生活指導の側面について述べたい。No.10「生徒の規範意識の向上」は、教員は77.8%（↓7.7%）が取組はできていると回答しているが、下表を見ると各学年とも一様にポイントを下げている。本校教員は発達段階に応じた成長を促す生徒指導を行っているが（プラス評価88.9%）、独自項目「先生とのコミュニケーションが十分とれ、先生の指導に納得している」では、中等部平均76.9%（1.1%↑）高等部平均68.1%（9.4%↓）と、高等部生徒の数値が下がった。高等部からの入学生44名のプラス評価が41%（内部生67%、昨年度の外部生63.0%）と低くなっており、在校年数による教員との人間関係や出身中学校でのそれまでの指導との違いが大きく影響しているものと考えられる。保護者の側から教員と生徒とのコミュニケーション状態を見ると、プラス評価は中等部平均70.4%高等部平均71.7%で、高3保護者のそれは81.8%と高かった。本校の独自項目「関大生としての自覚をもって行動しているか」では、概ね80%近くの生徒がプラス評価をしており、高等部からの入学生も84%と高い数値となっていることは、専願入学者の多い本校の高等部入試を反映しているものである。この数値を何とか「教育方針」の理解へと結びつけ、本校に対する生徒のアイデンティティーを高めていきたい。

アンケート項目	中1	中2	中3	高1 内部生	高1	高2	高3
規範意識が昨年より向上	81.3	81.4	73.6	67.0	62.6	63.0	63.8
昨年度からの増減 (%)	/	4.8↓	0.2↓	8.4↓	/	16.7↓	5.9↓
関大生としての自覚	86.9	90.3	77.2	83.5	83.6	81.9	79.0
昨年度からの増減 (%)	/	1.5↑	10.1↓	0.6↓	/	4.9↓	3.3↑

いじめに関する項目では、教員側は「実態把握に努め早期発見に努める体制の整備」について、82.3%とプラス評価している。本校の取り組みとしては、「いじめ防止対策基本方針」を策定し、委員会を設けてその防止と早期発見にあたっている。学校評価アンケートの後になるが、

1月授業再開時に全学年で「いじめ防止アンケート」を全校生対象（無記名）で実施し、現時点での実態把握に努め、迅速に個別聞き取り調査が人権教育部によって非常に丁寧に行われている。下表での数値はこの取り組み以前の数値であるため、生徒のプラス評価が低くなっている。いじめ防止アンケートから伺われる現状では、全校生対象の初調査となったため過去のケースを記す者もいたが、深刻な事例はなかったことが幸いであった。

アンケート項目	中1	中2	中3	高1	高2	高3
いじめを許さない指導が日常的に行われている（生徒）	74.8	68.1	51.7	55.7	64.5	64.7
いじめを許さない学級作りに取り組んでいる（保護者）	81.4	72.2	87.2	83.3	81.8	90.0

最後に、No.12「学校間連携」についてまとめてみる。

No.12「中高大の学校同士の教育連携があると思う」に関して、独自項目「関大に関する情報が増え、大学進学モチベーションが上がった」と対比して、併設校としての取り組みの効果をさぐってみたい。

アンケート項目	中1	中2	中3	高1	高2	高3
中高大の教育連携があると思う	74.8	82.3	75.4	78.2	69.6	72.3
昨年度の同学年との比較 (%)	7.1↓	0.1↑	10.6↓	5.4↑	15.9↑	3.6↑
関大の情報が増え大学進学モチベーションがアップした	57.1	64.6	59.7	68.7	60.2	85.7
昨年度の同学年との比較 (%)	7.5↓	9.0↑	5.5↑	0.7↓	11.8↓	1.8↑

今年度の新しい取組となったSGHでの大学教員による特別講義や、学部にご協力いただいて実現した本校を会場とする学部説明会によって、高等部1、2年生では数値がアップした。全体では中等部1年と3年生が中高大連携をあまり実感していないようであるが、中等部では3年間で関西大学の13学部教員による中大連携講座で知的好奇心を学問的な興味関心につなげていく取組を行っており、独自項目「関大に関する情報が増え、大学進学モチベーションが上がった」の数値は上がっている。本年度、中3では高等部への内部進学決定後の1～2月に、関大OBを中心とした社会人特別講座を実施し関大へのアイデンティティ育成も図った。次年度も中等部3年生の1～2月を中心に高等部での学習に対する意識向上に努めたい。11月実施のこのアンケートでは中大連携の効果をすべて測ることはできないが、併設校としての中大連携の可能性はまだまだ開拓できるものと考えている。

<学校関係者評価委員会からの評価結果>

ア 重点目標について

重点目標① 12年一貫教育における円滑な接続体制の確立

- ・ 初等部内部進学者に関して、初等部側と認識の差がある。その差の原因は決定的なものなのか改善可能なものなのかについては、一貫教育の推進において非常に重要な問題であり、すぐに解決するものではないが、初等部とよく議論して行ってほしい。
- ・ 思考スキルを学ぶことで満足するのではなく、「考える」ということに興味が沸くという感覚を生徒に十分伝えられてないかもしれない。
- ・ その学問を嫌いにならないためのモチベーションを高めることも重要である。中大連携の新しい取り組みは評価できる。
- ・ 無駄がない、先取り教育の実施など、いわゆる一般的に考えられている一貫教育のメリットが本当にメリットなのか考えどころである。与えすぎや無駄があってもいいのではないかと思うこともあり、中高一貫教育のあり方が変わりつつあるのかもしれない。
- ・ 保護者は中高の一貫教育に関して、そのメリットを目に見えて享受できていないのではないか。内部進学者をみても、培った思考力が教科の学習の中で生かされていないように思える。

重点目標② 家庭学習習慣の定着と大学受験を見据えた学習・進路指導

- ・ 施設一体型の一貫教育であっても、普通の公立学校と同じような悩みがあり、本校で小中一貫教育のあり方について検討が進んでいる点は評価できる。
- ・ 小は中、中は小に責任を負わそうとするのではなく、「なぜうまくいかないのか」、「何を一貫させるのか」が重要である。それは学び方、学びのスタイルであり、教育の内容ではないと考える。
- ・ 初等部に合格したことで満足している保護者が多いのではないかと。安堵するだけでなくスタートだと思って、家庭でもしっかりとしつけしてもらい意識付けが必要であるため、家庭学習の習慣付けの重要性はしっかり保護者・生徒に伝えるべきである。
- ・ それが最終的に生徒の幸せに繋がる重要な問題であり、家庭と学校が一体となって取り組むことが重要である。そのような生徒に正面から向き合うことは人材育成の観点からも教師としての責務であろう。
- ・ 内部進学者に一定の幅があることは当然のこととは許容すべきであると思うが、小学校段階で基礎基本学習の充実と、学力の低い児童に対するケア、学習習慣の定着など学びのスタイルについては、ぜひ初等部と話し合ってもらいたい。

イ アンケート結果について

- ・ 小規模校であり、最低限の教員数は確保できてくるが、補い合えるほどではないという

ことが現状であろう。ただ、校務組織の見直しや中高がひとつの組織であることのメリットは最大限活用すべきであると考える。

- ・ 責任時間数や教員配置について公立と比べ、私立は非常に厳しい環境にある。そのような中で、核となる先生にはどうしても様々なことが集中することになっているが、授業研究等ががんばってもらっていると思う。教師の本分である授業研究・教材研究をしっかり行い、授業の質を高めてもらうための時間が確保できる工夫をしてもらい、積極的に研修に参加できる環境を整備することが重要である。
- ・ 行事が人を育てるという姿勢は非常に重要であるため、ぜひ堅持していただき、さらに進めてもらいたい。
- ・ スローラーナーへの対応については、高評価が少ない部分であり今後も課題であるが、大学合格をゴールとせず社会人となることまで範疇に入れば、どこまで学校が面倒を見るのかについては一定の線引きが必要であろう。
- ・ 学校生活への満足度が、生徒保護者共に今年度も高い数値となっている点は、教員の多忙化の中でもよく維持されているといえよう。

[学校関係者評価委員会委員名簿]

氏名	所属及び役職
上道 小太郎	高槻市中学校校長会 会長
長尾 忠浩	関西大学中等部・高等部教育後援会 会長
芝井 敬司	関西大学文学部 教授
鵜飼 昌男	関西大学中等部・高等部 校長

5. 校長の意見書

初等部からの内部進学学生を初めて迎えた今年度は、初中高 12 年一貫教育が本格的に指導した。学校評価アンケート全般から今年度の本校の様子を概観すると、多くの項目で昨年度よりプラス評価のポイントが下がっているが、教育活動そのものは新たに高等部の SGH の取組が始まり充実した 1 年間であった。また、開校以来 5 年間の各種取組が中等部からの 6 年計画、高等部からの 3 年計画で指導されてきたため、内部進学制度そのものに関する理解を教員間で進め、内部進学が本校にもたらす現象や課題の洗い出しと活動の修正に取り組んだ一年でもあった。

内部進学の開始によるこれまでの取組の修正は、入口と出口に内部進学制度の影響を受ける中等部に最も求められるものである。中等部 1 学年では各教科が 4 月からの学力分析に注力して、学校生活への適応よりも入学段階での学力差の存在を初等部と繰り返し協議してきた。次年度からは学校評価委員会のご指摘にあるとおり、小学校段階で基礎基本学習の充実と学力の低い児童に対するケア、学習習慣の定着など学びのスタイルについて等、焦点をしばって議論を進めていかなければならないと感じる。家庭学習習慣の重要性は、今後の生徒の伸びに深くかかわっていることをしっかりと保護者に伝え、家庭と一体となって取り組むことに一層理解を得ていきたい。

また、本校教員の多忙な現状の相当な部分が小規模校であることに起因しているため、その解消は容易なものではない。しかし、日々の授業改善をモチベーション高く維持していくためには、教員に時間的な余裕を作り出すことが何よりも必要であると認識している。校務運営委員会を中心に教職員間のコンセンサスを尊重して、開校以来の学校体制にも前例を墨守せず改善に取り組み、内部進学制度が初中高大でフル稼働する新しい状況に対応していきたい。

今後、内部進学学生の育ちが本校の将来的な発展を担うと考えるため、学年が進むにつれて彼らをどう育てていくのか、学習習慣、自主性、関大へのアイデンティティーなど、テーマごとに段階的な到達点を明確に示した 6 年間シラバスを策定し、初中高 12 年一貫教育の後半部を計画的に担っていきたい。

関西大学中等部・高等部
校長 鵜飼 昌男

2014年度 関西大学高等部・中等部点検・評価アンケート集計 凡例：A…そう思う B…どちらかといえばそう思う C…どちらかと言えばそう思わない D…そう思わない

分類	NO	評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成26年度実数				平成26年度%集計					
		大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	対象	A	B	C	D
学校全般	1			本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。 学校生活は楽しいと感じていますか。	教員	2.3	13	31	1	0	教員	28.9%	68.9%	2.2%	0.0%
					中1生(107名)	2.4	58	38	9	1	中1	54.2%	35.5%	8.4%	0.9%
					中2生(113名)	2.6	69	32	7	5	中2	61.1%	28.3%	6.2%	4.4%
					中3生(114名)	2.5	69	26	13	6	中3	60.5%	22.8%	11.4%	5.3%
					高1生(147名)	3.0	57	70	13	7	高1	38.8%	47.6%	8.8%	4.8%
					高2生(138名)	2.7	54	57	16	10	高2	39.1%	41.3%	11.6%	7.2%
					高3生(119名)	2.8	66	47	3	3	高3	55.5%	39.5%	2.5%	2.5%
					中1保護者(97)	2.4	48	39	8	2	中1	49.5%	40.2%	8.2%	2.1%
					中2保護者(104)	2.3	47	44	10	2	中2	45.2%	42.3%	9.6%	1.9%
					中3保護者(110)	2.5	64	37	9	0	中3	58.2%	33.6%	8.2%	0.0%
					中合計	2.4	159	120	27	4	中平均	51.1%	38.6%	8.7%	1.3%
					高1保護者(150)	2.3	66	65	16	2	高1	44.0%	43.3%	10.7%	1.3%
					高2保護者(132)	2.2	53	57	12	7	高2	40.2%	43.2%	9.1%	5.3%
					高3保護者(110)	2.5	65	40	3	2	高3	59.1%	36.4%	2.7%	1.8%
高合計	2.3	184	162	31	11	高平均	46.9%	41.3%	7.9%	2.8%					
				本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。	教員	2.0	6	32	7	0	教員	13.3%	71.1%	15.6%	0.0%
2				この学校に入学して良かったと思いますか。	中1生	2.5	62	36	8	0	中1	57.9%	33.6%	7.5%	0.0%
					中2生	2.4	51	48	8	5	中2	45.1%	42.5%	7.1%	4.4%
					中3生	2.3	47	47	15	5	中3	41.2%	41.2%	13.2%	4.4%
					高1生	2.6	39	65	30	13	高1	26.5%	44.2%	20.4%	8.8%
					高2生	2.3	28	70	26	14	高2	20.3%	50.7%	18.8%	10.1%
					高3生	2.4	40	67	7	5	高3	33.6%	56.3%	5.9%	4.2%
					中1保護者	2.2	40	41	9	7	中1	41.2%	42.3%	9.3%	7.2%
					中2保護者	2.2	38	54	10	2	中2	36.5%	51.9%	9.6%	1.9%
					中3保護者	2.4	57	40	11	2	中3	51.8%	36.4%	10.0%	1.8%
					中合計	2.3	135	135	30	11	中平均	43.4%	43.4%	9.6%	3.5%
					高1保護者	2.2	59	68	21	1	高1	39.3%	45.3%	14.0%	0.7%
					高2保護者	2.1	46	62	16	6	高2	34.8%	47.0%	12.1%	4.5%
					高3保護者	2.5	62	45	2	1	高3	56.4%	40.9%	1.8%	0.9%
					高合計	2.3	167	175	39	8	高平均	42.6%	44.6%	9.9%	2.0%

2014年度 関西大学高等部・中等部点検・評価アンケート集計 凡例：A…そう思う B…どちらかといえばそう思う C…どちらかと言えばそう思わない D…そう思わない

分類	NO	評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成26年度実数				平成26年度%集計					
		大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	対象	A	B	C	D
学校運営	3	私学の独自性	教育方針・教育目標	本校の建学の精神、中長期ビジョン、教育方針が教職員・保護者など、関係者に浸透している。	教員	1.8	2	34	9	0	教員	4.4%	75.6%	20.0%	0.0%
				本校の教育方針を理解していますか。	中1生	2.2	33	63	8	2	中1	30.8%	58.9%	7.5%	1.9%
					中2生	2.3	35	61	14	3	中2	31.0%	54.0%	12.4%	2.7%
					中3生	1.8	26	42	32	13	中3	22.8%	36.8%	28.1%	11.4%
					高1生	2.3	14	80	42	11	高1	9.5%	54.4%	28.6%	7.5%
					高2生	2.1	16	70	38	13	高2	11.6%	50.7%	27.5%	9.4%
					高3生	1.9	21	55	29	14	高3	17.6%	46.2%	24.4%	11.8%
					中1保護者	2.1	28	57	8	3	中1	28.9%	58.8%	8.2%	3.1%
					中2保護者	2.2	31	65	8	0	中2	29.8%	62.5%	7.7%	0.0%
					中3保護者	2.4	47	58	4	1	中3	42.7%	52.7%	3.6%	0.9%
					中合計	2.2	106	180	20	4	中平均	34.1%	57.9%	6.4%	1.3%
					高1保護者	2.1	38	92	19	1	高1	25.3%	61.3%	12.7%	0.7%
					高2保護者	2.1	31	81	17	0	高2	23.5%	61.4%	12.9%	0.0%
					高3保護者	2.2	35	64	9	1	高3	31.8%	58.2%	8.2%	0.9%
					高合計	2.1	104	237	45	2	高平均	26.5%	60.5%	11.5%	0.5%
学校運営	1	会議の有効性	教職員連携	職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。	教員	1.9	6	29	8	2	教員	13.3%	64.4%	17.8%	4.4%
				教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係の構築と教育活動を行っている。	教員	1.8	5	28	10	2	教員	11.1%	62.2%	22.2%	4.4%
				管理職と教員との間で相互理解と信頼関係を築いている。	教員	1.9	7	26	11	1	教員	15.6%	57.8%	24.4%	2.2%
				教員と事務職員とで相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。	教員	2.3	14	29	2	0	教員	31.1%	64.4%	4.4%	0.0%
学校運営	2	教職員連携	情報公開	生徒や保護者に対して、きめの細かい情報提供に心がけ、学校での指導に対する理解を深めている。	教員	2.0	8	28	9	0	教員	17.8%	62.2%	20.0%	0.0%
				学校だより、学級通信等の発行	中1保護者	1.8	22	45	23	7	中1	22.7%	46.4%	23.7%	7.2%
					中2保護者	1.9	22	51	26	5	中2	21.2%	49.0%	25.0%	4.8%
					中3保護者	2.0	32	49	26	3	中3	29.1%	44.5%	23.6%	2.7%
					中合計	1.9	76	145	75	15	中平均	24.4%	46.6%	24.1%	4.8%
学校運営	3	教職員連携	情報公開	学校だより、学級通信等によって、学校の様子がよくわかり、指導の意図がよくわかりますか。	高1保護者	1.9	35	75	35	4	高1	23.3%	50.0%	23.3%	2.7%
					高2保護者	1.7	22	58	45	5	高2	16.7%	43.9%	34.1%	3.8%
					高3保護者	1.9	24	58	22	5	高3	21.8%	52.7%	20.0%	4.5%
	高合計	1.9	81	191	102	14	高平均	20.7%	48.7%	26.0%	3.6%				

2014年度 関西大学高等部・中等部点検・評価アンケート集計 凡例:A…そう思う B…どちらかといえばそう思う C…どちらかと言えばそう思わない D…そう思わない

分類	NO	評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成26年度実数				平成26年度%集計					
		大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	対象	A	B	C	D
学校運営	1	危機管理	避難訓練や安全対策	警察や消防署と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。 事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すればよいか、指導を受けていますか。 中1保護者や安全講習など積極的な対策を講じていると思われませんか。 事故、事件、災害に対する初動対応が的確に行われる組織になっている。 先生は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていますか。 学校は生徒のトラブルや学校生活での問題に対して、迅速かつ適切な対応をしていると思われませんか。	教員	2.0	10	28	6	1		22.2%	62.2%	13.3%	2.2%
					中1生	2.4	52	46	9	0		48.6%	43.0%	8.4%	0.0%
					中2生	2.5	58	40	12	3		51.3%	35.4%	10.6%	2.7%
					中3生	2.0	29	50	22	13		25.4%	43.9%	19.3%	11.4%
					高1生	2.7	42	69	22	14		28.6%	46.9%	15.0%	9.5%
					高2生	2.7	40	71	22	5		29.0%	51.4%	15.9%	3.6%
学校運営	2	危機管理	初動対応	中3生	2.3	34	60	20	4		28.6%	50.4%	16.8%	3.4%	
				中1保護者	2.0	24	53	18	1	中1	24.7%	54.6%	18.6%	1.0%	
				中2保護者	2.2	36	55	7	5	中2	34.6%	52.9%	6.7%	4.8%	
				中3保護者	2.3	41	59	8	1	中3	37.3%	53.6%	7.3%	0.9%	
				中合計	2.2	101	167	33	7	中平均	32.5%	53.7%	10.6%	2.3%	
				高1保護者	2.3	57	79	13	0	高1	38.0%	52.7%	8.7%	0.0%	
学校運営	6			高2保護者	2.1	39	73	13	5	高2	29.5%	55.3%	9.8%	3.8%	
				高3保護者	2.3	38	63	8	1	高3	34.5%	57.3%	7.3%	0.9%	
				高合計	2.2	134	215	34	6	高平均	34.2%	54.8%	8.7%	1.5%	
				教員	1.8	6	26	12	0	教員	13.3%	57.8%	26.7%	0.0%	
				中1生	2.2	48	40	14	4	中1	44.9%	37.4%	13.1%	3.7%	
				中2生	2.2	27	69	13	4	中2	23.9%	61.1%	11.5%	3.5%	
学校運営				中3生	1.9	21	53	31	9	中3	18.4%	46.5%	27.2%	7.9%	
				高1生	2.3	18	78	36	15	高1	12.2%	53.1%	24.5%	10.2%	
				高2生	2.3	25	71	32	10	高2	18.1%	51.4%	23.2%	7.2%	
				高3生	1.9	19	56	36	8	高3	16.0%	47.1%	30.3%	6.7%	
				中1保護者	1.9	26	43	16	12	中1	26.8%	44.3%	16.5%	12.4%	
				中2保護者	2.0	26	56	17	4	中2	25.0%	53.8%	16.3%	3.8%	
学校運営				中3保護者	2.1	28	67	10	4	中3	25.5%	60.9%	9.1%	3.6%	
				中合計	2.0	80	166	43	20	中平均	25.7%	53.4%	13.8%	6.4%	
				高1保護者	2.0	37	84	19	10	高1	24.7%	56.0%	12.7%	6.7%	
				高2保護者	1.8	22	75	27	6	高2	16.7%	56.8%	20.5%	4.5%	
				高3保護者	2.2	33	67	8	2	高3	30.0%	60.9%	7.3%	1.8%	
				高合計	2.0	92	226	54	18	高平均	23.5%	57.7%	13.8%	4.6%	

2014年度 関西大学高等部・中等部点検・評価アンケート集計 凡例：A…そう思う B…どちらからかといえばそう思う C…どちらからかと言えばそう思わない D…そう思わない

分類	NO	評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成26年度実数				平成26年度%集計					
		大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	対象	A	B	C	D
学校運営	6	3	危機管理 情報管理	生徒や教職員の個人情報管理が組織的に行われている。 「情報」「総合」等の授業を通じて、情報に関する倫理やその保護について理解していますか。 学校は個人情報の重要性をよく理解し、その保護に努めていると思われませんか。 近隣地域において、本校の教育活動に理解を得るための取り組みや地域人材の活用を行っている。 地域との連携 地域連携の推進	教員	2.1	10	31	4	0		22.2%	68.9%	8.9%	0.0%
					中1生	2.1	28	62	16	0		26.2%	57.9%	15.0%	0.0%
					中2生	2.1	26	62	24	1		23.0%	54.9%	21.2%	0.9%
					中3生	1.9	24	51	29	9		21.1%	44.7%	25.4%	7.9%
					高1生	2.4	19	83	33	12		12.9%	56.5%	22.4%	8.2%
					高2生	2.3	20	74	41	3		14.5%	53.6%	29.7%	2.2%
					高3生	1.9	15	63	35	6		12.6%	52.9%	29.4%	5.0%
					中1保護者	2.2	42	39	11	3		43.3%	40.2%	11.3%	3.1%
					中2保護者	2.3	42	51	8	2		40.4%	49.0%	7.7%	1.9%
					中3保護者	2.4	50	58	0	2		45.5%	52.7%	0.0%	1.8%
					中合計	2.3	134	148	19	7		43.1%	47.6%	6.1%	2.3%
					高1保護者	2.4	69	75	3	2		46.0%	50.0%	2.0%	1.3%
					高2保護者	2.3	58	65	5	2		43.9%	49.2%	3.8%	1.5%
					高3保護者	2.4	52	55	1	1		47.3%	50.0%	0.9%	0.9%
					高合計	2.4	179	195	9	5		45.7%	49.7%	2.3%	1.3%
				教員	1.6	2	22	20	1		4.4%	48.9%	44.4%	2.2%	
				中1保護者	2.0	22	60	12	1		22.7%	61.9%	12.4%	1.0%	
				中2保護者	2.3	41	57	2	0		39.4%	54.8%	1.9%	0.0%	
				中3保護者	2.3	42	60	7	1		38.2%	54.5%	6.4%	0.9%	
				中合計	2.2	105	177	21	2		33.8%	56.9%	6.8%	0.6%	
				高1保護者	2.3	61	80	8	0		40.7%	53.3%	5.3%	0.0%	
				高2保護者	2.1	35	82	13	0		26.5%	62.1%	9.8%	0.0%	
				高3保護者	2.2	36	61	12	1		32.7%	55.5%	10.9%	0.9%	
				高合計	2.2	132	223	33	1		33.7%	56.9%	8.4%	0.3%	

2014年度 関西大学高等部・中等部点検・評価アンケート集計 凡例：A…そう思う B…どちらかといえばそう思う C…どちらかと言えばそう思わない D…そう思わない

分類	NO	評価項目		アンケート対象	平成26年度実数				平成26年度%集計						
		大項目	小項目		平均点	A	B	C	D	対象	A	B	C	D	
															組織面の自己点検・評価（設問）
教育内容	1		学力向上のための組織的な取組	<p>学力向上のための組織的な取組を行っている。</p> <p>授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。</p>	教員	2.2	12	28	5	0	教員	26.7%	62.2%	11.1%	0.0%
					中1生	2.0	23	64	18	2	中1	21.5%	59.8%	16.8%	1.9%
					中2生	2.0	23	59	28	3	中2	20.4%	52.2%	24.8%	2.7%
					中3生	2.0	27	59	20	8	中3	23.7%	51.8%	17.5%	7.0%
					高1生	2.6	27	80	34	6	高1	18.4%	54.4%	23.1%	4.1%
					高2生	2.1	17	64	47	10	高2	12.3%	46.4%	34.1%	7.2%
					高3生	2.3	32	67	17	3	高3	26.9%	56.3%	14.3%	2.5%
	2		学力向上のための組織的な取組	<p>本校は学力向上のために組織的な取組を行っていると思われませんか。</p> <p>模擬試験等を活用して学習状況を計画的に把握し、学年集団・個人への効果的な指導体制がとられている。</p> <p>模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていますか。</p> <p>学校は生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われませんか。</p>	中1保護者	1.9	25	46	17	9	中1	25.8%	47.4%	17.5%	9.3%
					中2保護者	2.1	37	42	20	4	中2	35.6%	40.4%	19.2%	3.8%
					中3保護者	2.1	35	57	13	5	中3	31.8%	51.8%	11.8%	4.5%
					中合計	2.0	97	145	50	18	中平均	31.2%	46.6%	16.1%	5.8%
					高1保護者	2.1	52	70	23	5	高1	34.7%	46.7%	15.3%	3.3%
					高2保護者	1.8	35	49	38	8	高2	26.5%	37.1%	28.8%	6.1%
					高3保護者	2.1	41	48	15	5	高3	37.3%	43.6%	13.6%	4.5%
高合計	2.0	128	167	76	18	高平均	32.7%	42.6%	19.4%	4.6%					
7		知育(学習指導)	<p>模擬試験等を活用して学習状況を計画的に把握し、学年集団・個人への効果的な指導体制がとられている。</p> <p>模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていますか。</p> <p>学校は生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われませんか。</p>	教員	2.3	16	27	2	0	教員	35.6%	60.0%	4.4%	0.0%	
				中1生	2.1	31	60	13	3	中1	29.0%	56.1%	12.1%	2.8%	
				中2生	2.1	30	58	23	2	中2	26.5%	51.3%	20.4%	1.8%	
				中3生	1.8	17	53	40	3	中3	14.9%	46.5%	35.1%	2.6%	
				高1生	2.4	20	83	34	10	高1	13.6%	56.5%	23.1%	6.8%	
				高2生	2.2	21	69	39	9	高2	15.2%	50.0%	28.3%	6.5%	
				高3生	2.4	42	61	12	4	高3	35.3%	51.3%	10.1%	3.4%	
中1保護者	2.0	30	46	15	6	中1	30.9%	47.4%	15.5%	6.2%					
中2保護者	2.1	36	51	12	4	中2	34.6%	49.0%	11.5%	3.8%					
中3保護者	2.1	32	65	9	4	中3	29.1%	59.1%	8.2%	3.6%					
中合計	2.1	98	162	36	14	中平均	31.5%	52.1%	11.6%	4.5%					
高1保護者	2.1	48	81	16	5	高1	32.0%	54.0%	10.7%	3.3%					
高2保護者	1.9	39	56	28	7	高2	29.5%	42.4%	21.2%	5.3%					
高3保護者	2.2	37	65	6	2	高3	33.6%	59.1%	5.5%	1.8%					
高合計	2.1	124	202	50	14	高平均	31.6%	51.5%	12.8%	3.6%					

2014年度 関西大学高等部・中等部点検・評価アンケート集計 凡例:A…そう思う B…どちらかといえばそう思う C…どちらかと言えばそう思わない D…そう思わない

分類	NO	評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成26年度実数				平成26年度%集計					
		大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	対象	A	B	C	D
教育内容	9	知育(学習指導)	保護者との連携	学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。 自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。	教員	2.3	14	30	1	0	教員	31.1%	66.7%	2.2%	0.0%
						2.2	45	45	12	4	中1	42.1%	42.1%	11.2%	3.7%
						2.6	64	39	8	2	中2	56.6%	34.5%	7.1%	1.8%
						2.4	53	44	14	3	中3	46.5%	38.6%	12.3%	2.6%
						2.9	50	72	17	8	高1	34.0%	49.0%	11.6%	5.4%
						2.5	39	61	30	8	高2	28.3%	44.2%	21.7%	5.8%
						2.4	40	58	18	3	高3	33.6%	48.7%	15.1%	2.5%
						1.8	21	41	25	9	中1	21.6%	42.3%	25.8%	9.3%
						2.0	25	55	19	5	中2	24.0%	52.9%	18.3%	4.8%
						2.0	30	58	19	3	中3	27.3%	52.7%	17.3%	2.7%
					中合計	1.9	76	154	63	17	中平均	24.4%	49.5%	20.3%	5.5%
					高1保護者	1.9	34	76	33	7	高1	22.7%	50.7%	22.0%	4.7%
					高2保護者	1.8	25	65	34	6	高2	18.9%	49.2%	25.8%	4.5%
					高3保護者	2.2	34	61	13	2	高3	30.9%	55.5%	11.8%	1.8%
					高合計	1.9	93	202	80	15	高平均	23.7%	51.5%	20.4%	3.8%
					教員	2.0	9	26	10	0	教員	20.0%	57.8%	22.2%	0.0%
				生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組を行っている。	中1生	2.1	34	53	18	1	中1	31.8%	49.5%	16.8%	0.9%
					中2生	2.2	38	54	17	4	中2	33.6%	47.8%	15.0%	3.5%
					中3生	2.0	29	55	22	7	中3	25.4%	48.2%	19.3%	6.1%
				生徒としてのマナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか。	高1生	2.4	26	66	42	13	高1	17.7%	44.9%	28.6%	8.8%
					高2生	2.2	18	69	44	7	高2	13.0%	50.0%	31.9%	5.1%
					高3生	1.9	21	55	32	11	高3	17.6%	46.2%	26.9%	9.2%
					中1生	2.2	41	52	12	2	中1	38.3%	48.6%	11.2%	1.9%
					中2生	2.4	39	63	9	2	中2	34.5%	55.8%	8.0%	1.8%
					中3生	2.1	28	60	19	7	中3	24.6%	52.6%	16.7%	6.1%
	10	徳育(生活指導)	社会規範の理解とモラルの醸成	登下校時を中心に、関大生としての自覚をもって行動していますか。	高1生	2.8	34	89	20	4	高1	23.1%	60.5%	13.6%	2.7%
高2生					2.6	31	82	20	5	高2	22.5%	59.4%	14.5%	3.6%	
高3生					2.2	29	65	21	4	高3	24.4%	54.6%	17.6%	3.4%	
					中1保護者	1.9	25	45	16	11	中1	25.8%	46.4%	16.5%	11.3%
					中2保護者	2.0	26	58	16	3	中2	25.0%	55.8%	15.4%	2.9%
					中3保護者	2.2	43	53	11	3	中3	39.1%	48.2%	10.0%	2.7%
					中合計	2.0	94	156	43	17	中平均	30.2%	50.2%	13.8%	5.5%
					高1保護者	2.2	47	85	13	4	高1	31.3%	56.7%	8.7%	2.7%
					高2保護者	2.1	40	71	11	7	高2	30.3%	53.8%	8.3%	5.3%
					高3保護者	2.3	43	60	6	1	高3	39.1%	54.5%	5.5%	0.9%
					高合計	2.2	130	216	30	12	高平均	33.2%	55.1%	7.7%	3.1%

2014年度 関西大学高等部・中等部点検・評価アンケート集計 凡例：A…そう思う B…どちらかといえばそう思う C…どちらかと言えばそう思わない D…そう思わない

分類	NO	評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成26年度実数				平成26年度%集計							
		大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	対象	A	B	C	D		
教育内容	10	徳育(生活指導)	生徒理解	<p>中高の発達段階に応じた生徒指導に留意し、生徒の成長を促す生徒指導を行っている。</p> <p>先生とのコミュニケーションが十分とれ、先生の指導に納得している。</p>	教員	2.3	9	31	5	0	教員	20.0%	68.9%	11.1%	0.0%		
					中1生	2.2	37	59	10	1	中1	34.6%	55.1%	9.3%	0.9%		
					中2生	2.1	25	63	20	5	中2	22.1%	55.8%	17.7%	4.4%		
					中3生	1.9	22	50	38	4	中3	19.3%	43.9%	33.3%	3.5%		
					高1生	2.2	21	66	45	15	高1	14.3%	44.9%	30.6%	10.2%		
					高2生	2.4	23	73	38	4	高2	16.7%	52.9%	27.5%	2.9%		
					高3生	2.1	25	65	24	5	高3	21.0%	54.6%	20.2%	4.2%		
					中1保護者	1.9	24	48	17	8	中1	24.7%	49.5%	17.5%	8.2%		
					中2保護者	1.7	14	51	31	8	中2	13.5%	49.0%	29.8%	7.7%		
					中3保護者	1.9	22	60	22	6	中3	20.0%	54.5%	20.0%	5.5%		
				<p>中合計</p> <p>1.8 60 159 70 22 中平均</p>													
				<p>高1保護者</p> <p>1.8 23 82 33 11 高1</p>													
				<p>高2保護者</p> <p>1.7 22 64 36 8 高2</p>													
				<p>高3保護者</p> <p>2.1 34 56 16 4 高3</p>													
				<p>高合計</p> <p>1.9 79 202 85 23 高平均</p>													
				<p>教師と生徒とのコミュニケーションが十分とれていると思われませんか。</p>	教員	2.3	8	32	5	0	教員	17.8%	71.1%	11.1%	0.0%		
				<p>基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を行っている。</p>	中1生	2.1	38	46	23	0	中1生	35.5%	43.0%	21.5%	0.0%		
				<p>基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を受けていますか。</p>	中2生	2.2	37	56	14	5	中2生	32.7%	49.6%	12.4%	4.4%		
				<p>基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を受けていますか。</p>	中3生	2.0	24	56	29	5	中3生	21.1%	49.1%	25.4%	4.4%		
				<p>健康な身体づくり</p>	高1生	2.6	33	74	29	10	高1生	22.4%	50.3%	19.7%	6.8%		
				<p>体育</p>	高2生	2.2	17	72	40	9	高2生	12.3%	52.2%	29.0%	6.5%		
				<p>健康な身体づくり</p>	高3生	2.0	18	67	28	6	高3生	15.1%	56.3%	23.5%	5.0%		
				<p>基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思いますか。</p>	中1保護者	1.9	16	57	21	3	中1保護者	16.5%	58.8%	21.6%	3.1%		
				<p>健康な身体づくり</p>	中2保護者	2.1	25	66	10	3	中2保護者	24.0%	63.5%	9.6%	2.9%		
				<p>健康な身体づくり</p>	中3保護者	2.0	24	66	17	3	中3保護者	21.8%	60.0%	15.5%	2.7%		
				<p>健康な身体づくり</p>	中合計	2.0	65	189	48	9	中合計	20.9%	60.8%	15.4%	2.9%		
				<p>健康な身体づくり</p>	高1保護者	1.9	25	87	35	2	高1保護者	16.7%	58.0%	23.3%	1.3%		
				<p>健康な身体づくり</p>	高2保護者	1.8	23	61	43	3	高2保護者	17.4%	46.2%	32.6%	2.3%		
				<p>健康な身体づくり</p>	高3保護者	1.8	19	58	30	3	高3保護者	17.3%	52.7%	27.3%	2.7%		
				<p>健康な身体づくり</p>	高合計	1.8	67	206	108	8	高合計	17.1%	52.6%	27.6%	2.0%		

2014年度 関西大学高等部・中等部点検・評価アンケート集計 凡例：A…そう思う B…どちらかといえばそう思う C…どちらかと言えばそう思わない D…そう思わない

分類	NO	評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成26年度実数				平成26年度%集計					
		大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	対象	A	B	C	D
教育内容	1	学校間連携	中高大連携事業の実践	高大あるいは中大、初中高の学校間の教育連携が積極的に行われている。	教員	2.3	20	21	4	0	教員	44.4%	46.7%	8.9%	0.0%
				高大あるいは中大、初中高の学校同士の教育連携があると思いますか。	中1生	2.1	42	38	23	3	中1	39.3%	35.5%	21.5%	2.8%
					中2生	2.2	37	56	16	4	中2	32.7%	49.6%	14.2%	3.5%
					中3生	2.2	47	39	19	9	中3	41.2%	34.2%	16.7%	7.9%
					高1生	2.9	50	65	26	6	高1	34.0%	44.2%	17.7%	4.1%
					高2生	2.4	33	63	29	13	高2	23.9%	45.7%	21.0%	9.4%
	2	1	中高大連携事業の実践	高大あるいは中大、初中高の学校同士の教育連携が積極的に行われていると思いませんか。	中1保護者	1.7	16	43	30	7	中1	16.5%	44.3%	30.9%	7.2%
					中2保護者	2.2	33	57	11	3	中2	31.7%	54.8%	10.6%	2.9%
					中3保護者	2.2	37	61	11	1	中3	33.6%	55.5%	10.0%	0.9%
					中合計	2.0	86	161	52	11	中平均	27.7%	51.8%	16.7%	3.5%
					高1保護者	2.1	42	84	22	1	高1	28.0%	56.0%	14.7%	0.7%
					高2保護者	1.9	30	62	35	3	高2	22.7%	47.0%	26.5%	2.3%
2	2	中高大連携事業の実践	中高、関西大学に関する相互理解を進めるための取り組みを行っている。	高3保護者	2.0	32	54	20	4	高3	29.1%	49.1%	18.2%	3.6%	
				高合計	2.0	104	200	77	8	高平均	26.5%	51.0%	19.6%	2.0%	
				教員	2.3	17	27	1	0	教員	37.8%	60.0%	2.2%	0.0%	
				中1生	1.6	16	45	36	10	中1	15.0%	42.1%	33.6%	9.3%	
				中2生	1.9	23	50	32	8	中2	20.4%	44.2%	28.3%	7.1%	
				中3生	1.7	15	53	27	19	中3	13.2%	46.5%	23.7%	16.7%	
2	2	中高大連携事業の実践	関大に関する情報が増え、大学進学へのモチベーションが上がってきましたか。	高1生	2.5	32	69	33	13	高1	21.8%	46.9%	22.4%	8.8%	
				高2生	2.1	20	63	40	15	高2	14.5%	45.7%	29.0%	10.9%	
				高3生	2.5	49	53	15	2	高3	41.2%	44.5%	12.6%	1.7%	

2014年度 関西大学高等部・中等部点検・評価アンケート集計 凡例：A…そう思う B…どちらかといえばそう思う C…どちらかと言えばそう思わない D…そう思わない

分類	NO	評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成26年度実数				平成26年度%集計					
		大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	対象	A	B	C	D
生徒支援	13	カウンセリング	カウンセリング体制	生徒・保護者へのカウンセリング体制を整えている。 悩みが生じたときに、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。	教員	2.3	15	27	3	0		33.3%	60.0%	6.7%	0.0%
					中1生	1.8	24	48	27	7		22.4%	44.9%	25.2%	6.5%
					中2生	2.1	30	55	22	6		26.5%	48.7%	19.5%	5.3%
					中3生	2.0	31	49	25	9		27.2%	43.0%	21.9%	7.9%
					高1生	2.3	29	57	42	18		19.7%	38.8%	28.6%	12.2%
					高2生	2.5	31	79	19	9		22.5%	57.2%	13.8%	6.5%
					高3生	2.0	18	72	18	10		15.1%	60.5%	15.1%	8.4%
					中1生	1.7	27	36	27	17	中1	25.2%	33.6%	25.2%	15.9%
					中2生	1.5	23	33	24	27	中2	20.4%	29.2%	21.2%	23.9%
					中3生	1.4	21	29	34	27	中3	18.4%	25.4%	29.8%	23.7%
					高1生	1.6	12	39	54	37	高1	8.2%	26.5%	36.7%	25.2%
					高2生	1.9	24	42	47	21	高2	17.4%	30.4%	34.1%	15.2%
					高3生	1.8	22	51	27	17	高3	18.5%	42.9%	22.7%	14.3%
教員研修 資質向上	14	教員の研修活動	教員研修の充実	子どもに何らかの問題が生じたとき、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。 本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。	教員	2.3	8	22	12	3		17.8%	48.9%	26.7%	6.7%
					中1生	2.5	66	31	8	2	中1	61.7%	29.0%	7.5%	1.9%
					中2生	2.4	50	50	12	1	中2	44.2%	44.2%	10.6%	0.9%
					中3生	2.1	33	54	16	11	中3	28.9%	47.4%	14.0%	9.6%
					高1生	2.8	45	72	21	9	高1	30.6%	49.0%	14.3%	6.1%
					高2生	2.6	41	64	22	11	高2	29.7%	46.4%	15.9%	8.0%
					高3生	1.7	15	50	38	16	高3	12.6%	42.0%	31.9%	13.4%
					中1生	2.0	22	66	18	4	中1	20.0%	60.0%	16.4%	3.6%
					中2生	2.0	22	66	18	4	中2	23.7%	52.8%	18.4%	4.3%
					中3生	2.0	26	66	12	6	中3	23.6%	60.0%	10.9%	5.5%
					高1生	1.9	68	162	56	24	高1	21.9%	52.1%	18.0%	7.7%
					高2生	1.9	35	74	32	8	高2	23.3%	49.3%	21.3%	5.3%
					高3生	2.0	36	67	22	5	高3	27.3%	50.8%	16.7%	3.8%
合計	2.0	93	207	72	17	合計	23.7%	52.8%	18.4%	4.3%					

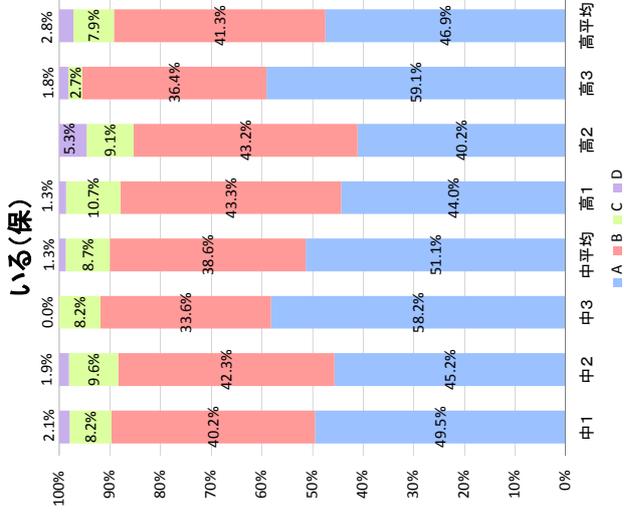
2014年度 関西大学高等部・中等部点検・評価アンケート集計 凡例：A…そう思う B…どちらかといえばそう思う C…どちらかと言えばそう思わない D…そう思わない

分類	NO	評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成26年度実数				平成26年度%集計						
		大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	対象	A	B	C	D	
教員研修 資質向上	14	1	教員の研 修活動	教員研修の 充実	本校の教員に教材研究や指導力の向上に努めようと していると思われませんか。	中1保護者	1.9	25	46	16	8	中1	25.8%	47.4%	16.5%	8.2%
						中2保護者	1.8	19	54	25	5	中2	18.3%	51.9%	24.0%	4.8%
						中3保護者	1.9	25	59	19	6	中3	22.7%	53.6%	17.3%	5.5%
						中合計	1.9	69	159	60	19	中平均	22.2%	51.1%	19.3%	6.1%
						高1保護者	1.9	40	70	30	9	高1	26.7%	46.7%	20.0%	6.0%
						高2保護者	1.8	34	53	34	6	高2	25.8%	40.2%	25.8%	4.5%
						高3保護者	2.0	28	62	13	6	高3	25.5%	56.4%	11.8%	5.5%
						高合計	1.9	102	185	77	21	高平均	26.0%	47.2%	19.6%	5.4%
		2		教員研修の 計画性	教員の資質を高めるために計画的に校内外で研修を 受ける体制を整えている。	教員	2.3	9	25	8	3		20.0%	55.6%	17.8%	6.7%

学校生活は楽しい



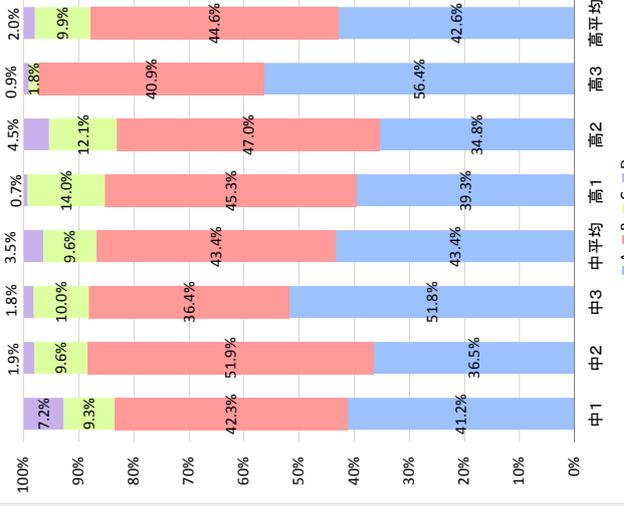
子どもは生き生きと学校生活を送っている(保)



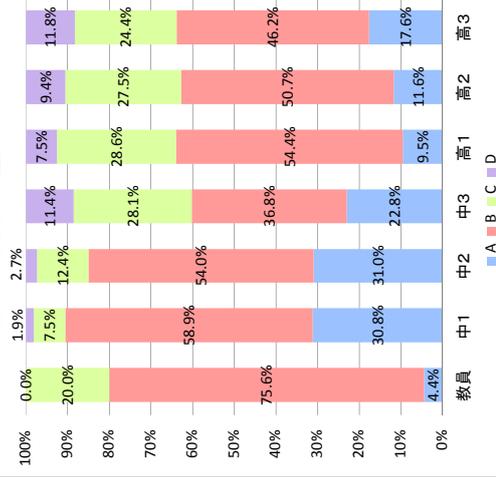
入学してよかった



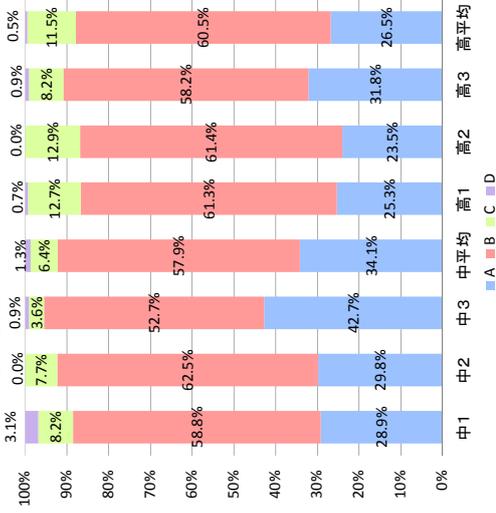
入学させてよかった(保)



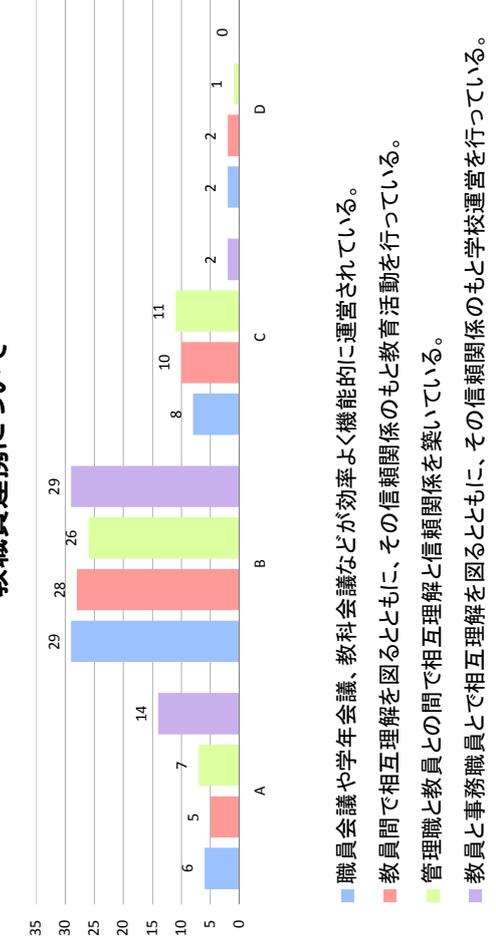
教育方針の理解



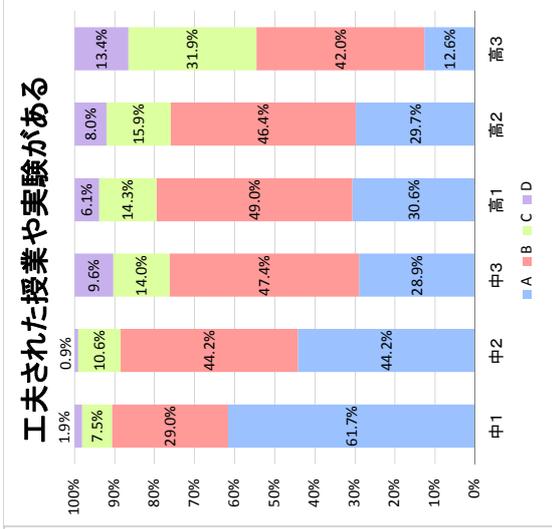
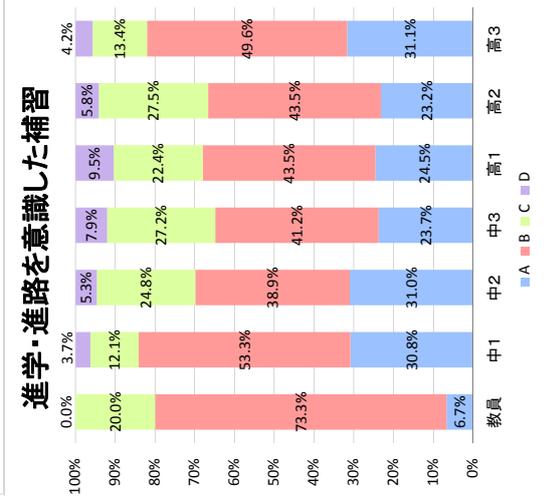
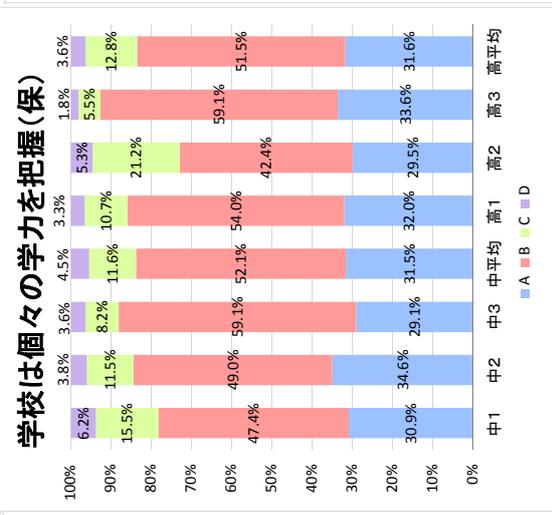
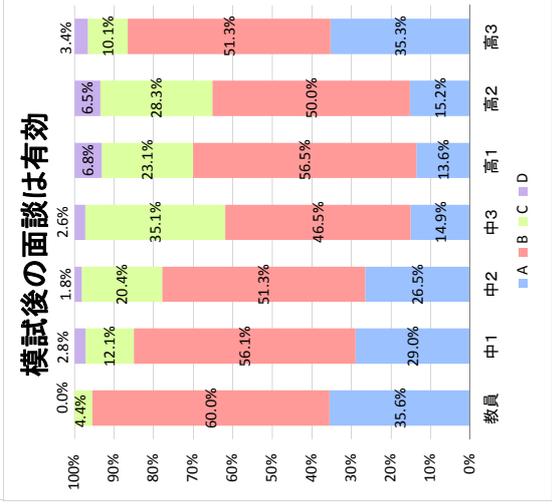
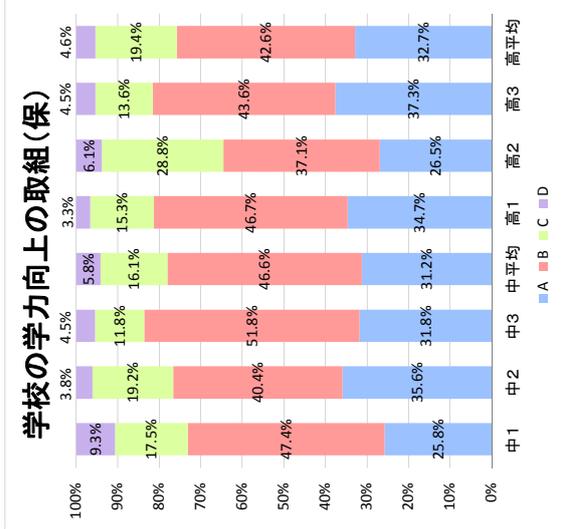
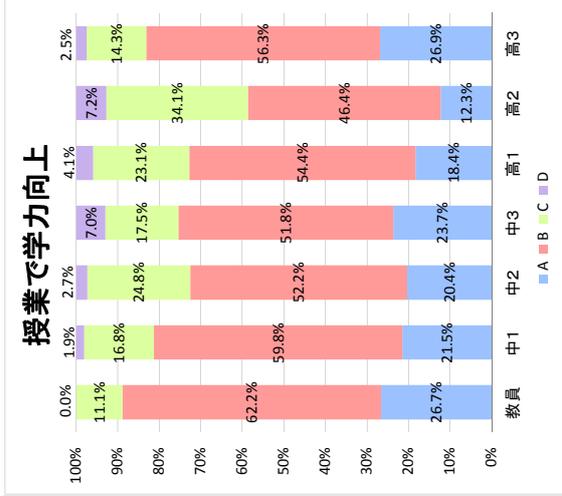
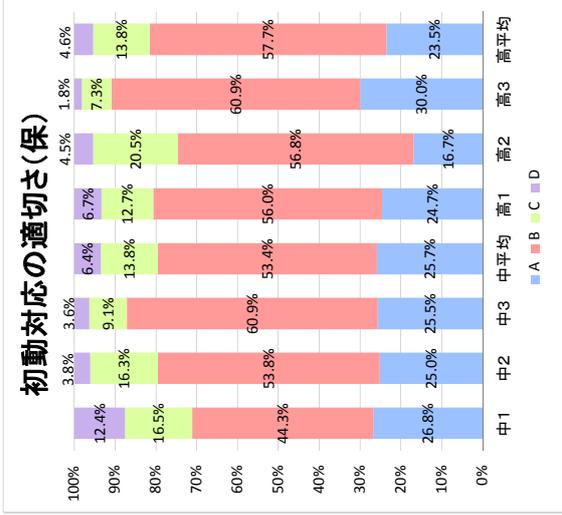
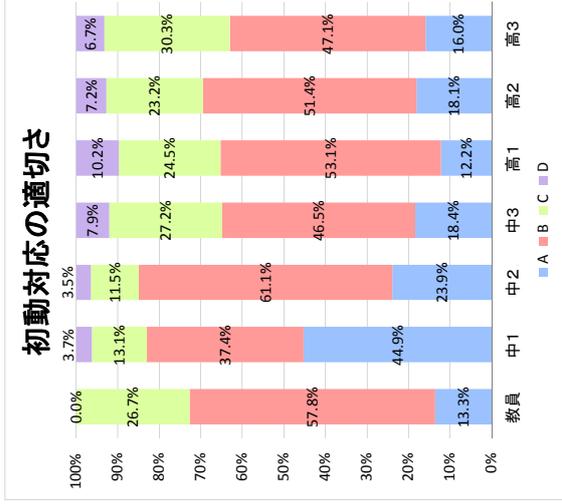
教育方針の理解(保)



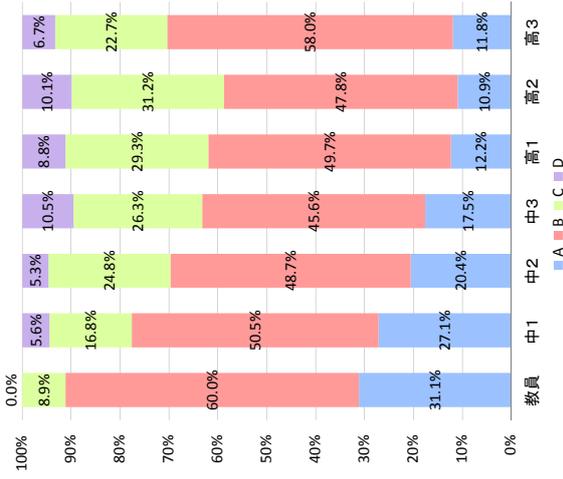
教職員連携について



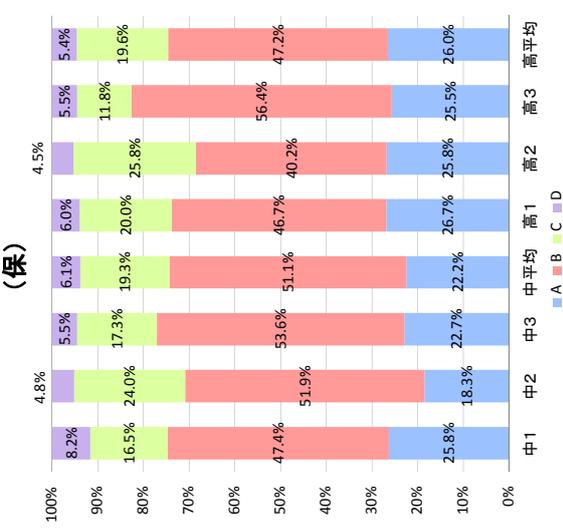
- 職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。
- 教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。
- 管理職と教員との間で相互理解と信頼関係を築いている。
- 教員と事務職員とで相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。



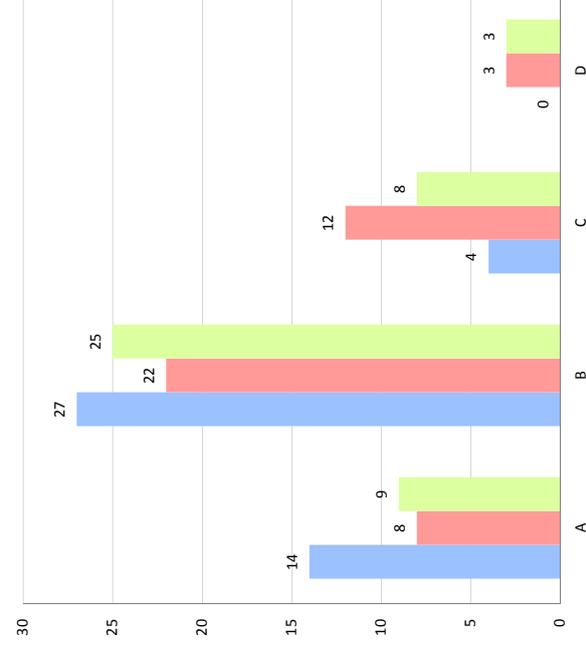
授業は分かりやすい



先生は授業の向上に努力している (保)



授業研究と研修体制の現状

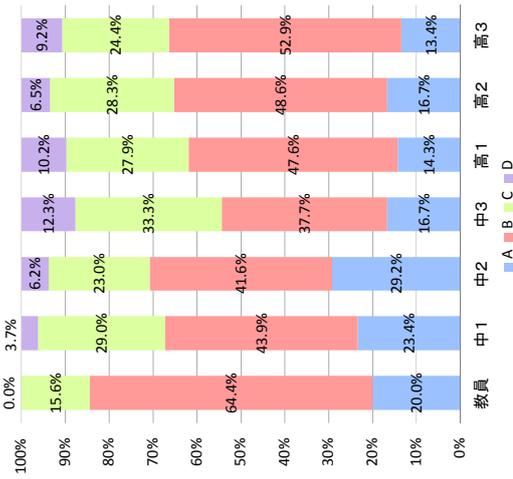


電子黒板やPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいる。

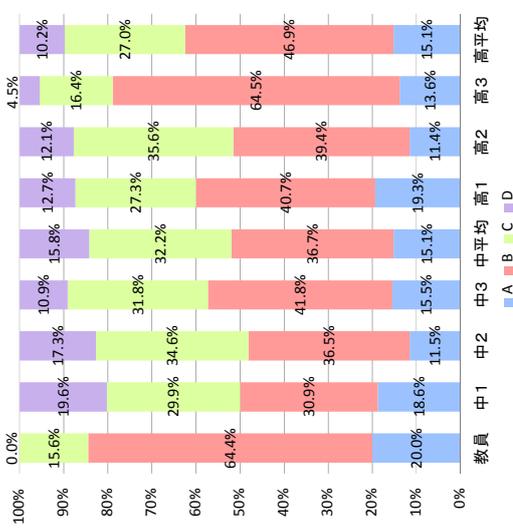
本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。

教員の資質を高めるために計画的に校内外で研修を受ける体制を整えている。

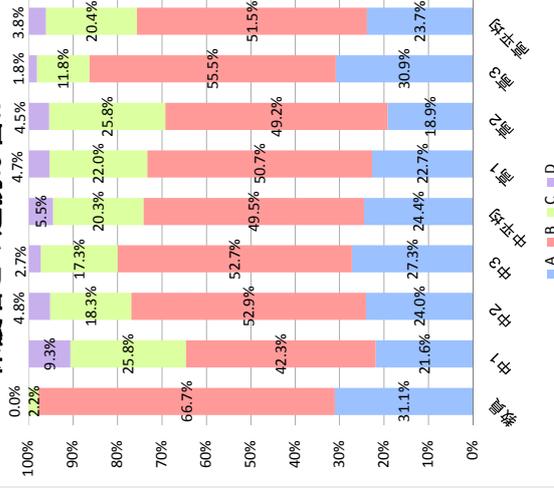
スローラーナー対応(教員/生徒)



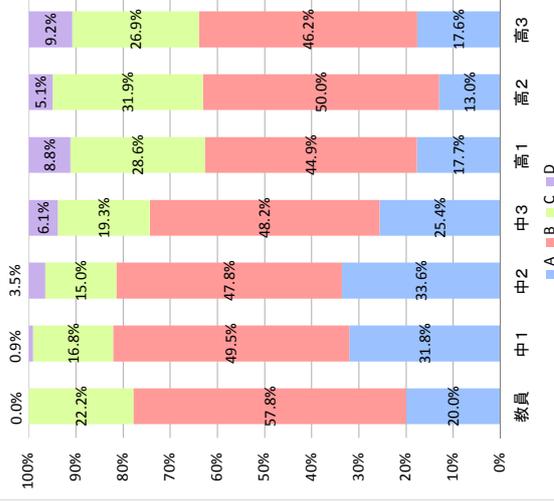
スローラーナー対応(教員/保護者)

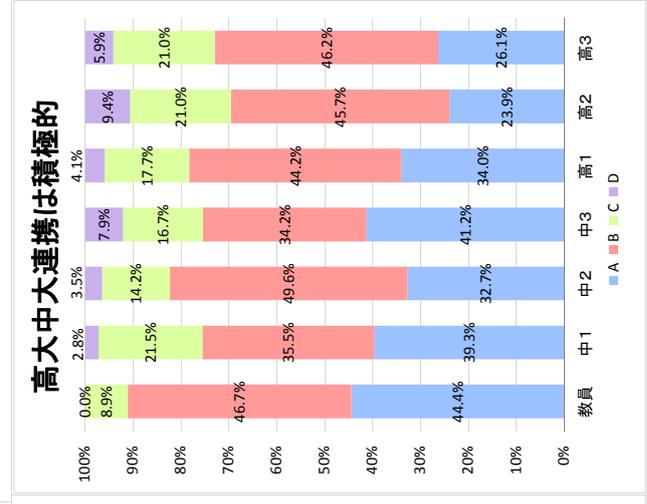
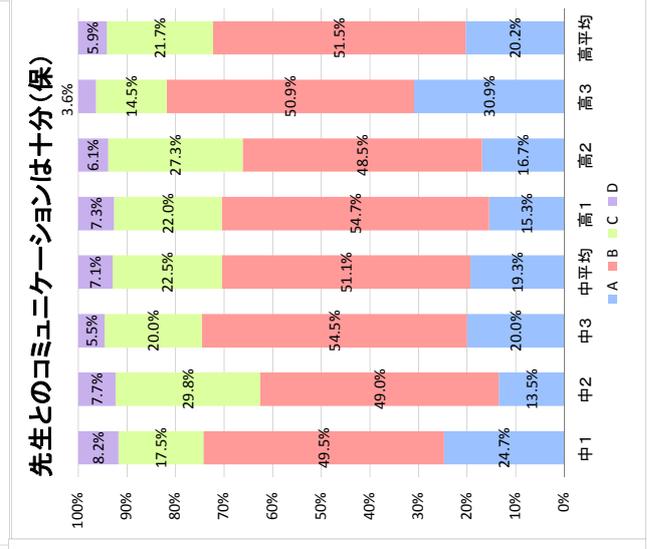
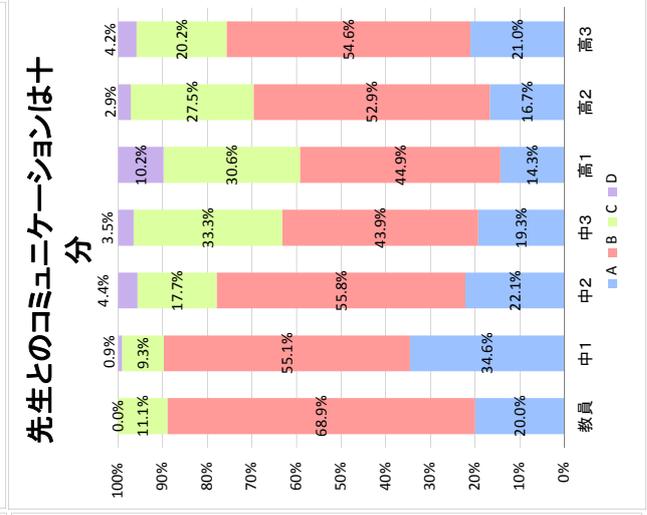
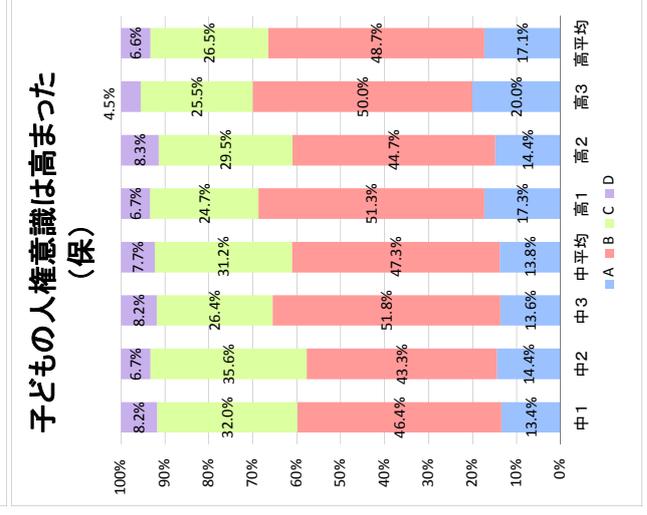
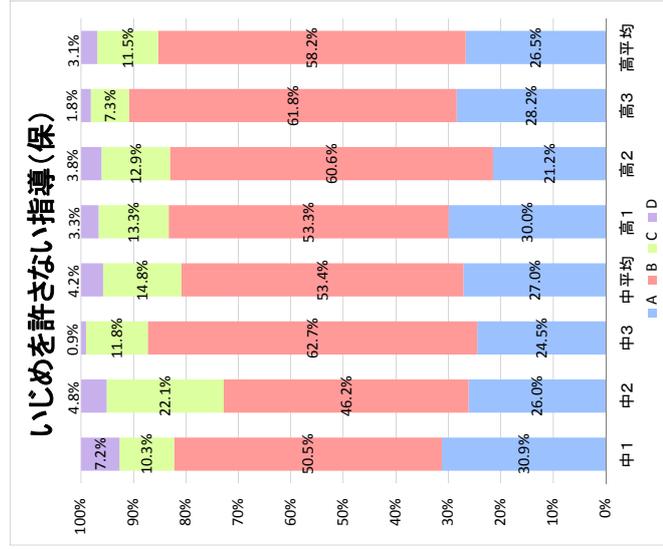
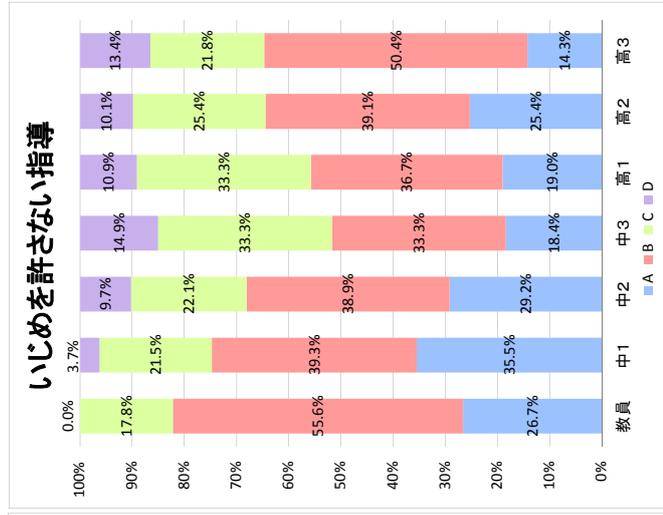


保護者との連携は密か

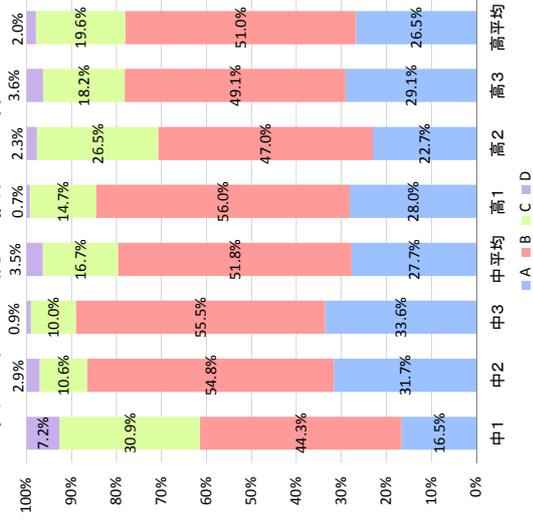


規範意識は向上した

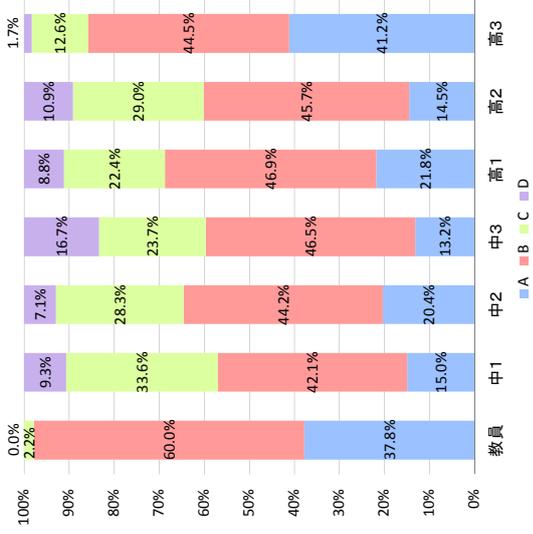




高中大連携は積極的(保)



関大理解、モチベーションアップ



何でも話せる先生がいる

